



町長エッセイ



「コロナを吹き飛ばそう!おがわウインドアンサンブル屋外コンサート」が7月11日にリリックの屋外舞台で開かれました。この環境の中でコンサートを実行するのは非常に勇気のいることだったでしょう。感染対策を実施しながらそれぞれの楽器のパートも練習をし、一つの大きな団体として演奏を作り上げることは並大抵のことでは無かったことでしょう。

ふるさと児童合唱団のかわいい子ども達の合唱も入り、周辺に集まった観客も大きな拍手を送り、暑い中でのすてきなコンサートとなりました。

さて、7月23日からは、いよいよ東京オリンピック、パラリンピック

が開催されました。

コロナ禍の中での開催は色々な制限があり、一部を除き無観客での実施は史上初となります。夜8時から始まった開会式では、直前に大会関係者の解任などがあり、波乱含みの式となりました。

それでも選手入場前のパフォーマンスに派手さは感じられませんでした。東京オリンピックにふさわしい日本の独特の表現となりました。入場行進では205の国や地域が参加した各国の民族性豊かなものがありました。聖火リレーでは、日本各地を巡ったトーチの火が中央に集められ、いよいよ最終ランナーの大坂なおみ選手の手に渡り、富士山を模した聖火台の階段を上りつめて点火となりました。翌日のテレビでは、その聖火台の舞台裏の映像が放映され、機械だけでなく人力による聖火台の動きは正に日本の職人氣質が感じとれました。競技場の上空には地球をかたどった、ドローンとは思えない光と動きによるショーが繰り広げられ、花火による仕上げも素晴らしいもので、コロナに負けない大会となることを願いました。

松本恒夫